

VAK診断でスタッフの能力を 最大限に引き出す方法

株式会社MECEプロデュース
パートナー 大門 愛

スタッフ育成の鍵は学びのスタイルにあり：VAK診断で能力を最大化

歯科医院の経営を成功させるには、スタッフ一人ひとりの能力を最大限に引き出すことが重要です。

しかし、「**なぜか指示が伝わらない**」「**スタッフの教育に時間がかかる**」といった悩みを抱えていませんか？

その原因は、相手の「学び方」や「情報の受け取り方」を理解していないことにあるかもしれません。

本ホワイトペーパーでは、スタッフ一人ひとりの潜在能力を無理なく引き出し、日々の教育をよりスムーズに進めるためのヒントとして、「**VAK診断**」をご紹介します。

VAK診断とは？

あなたはどのタイプ？ VAK診断で学習スタイルを見極めよう

VAK診断は、人が情報をどのように認識し、学習するかを、以下の3つのタイプに分類する診断方法です。

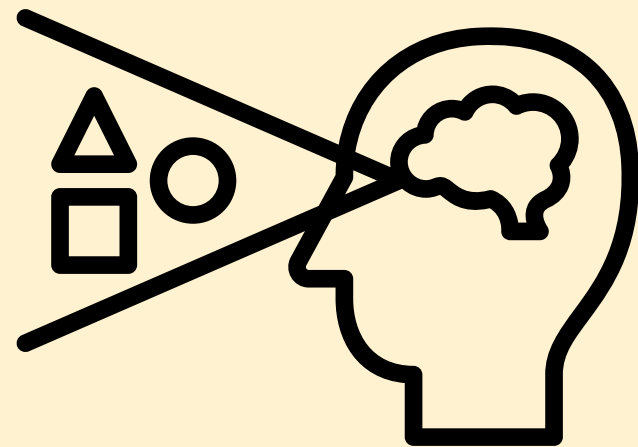
V (Visual)
視覚タイプ

A (Auditory)
聴覚タイプ

K (Kinesthetic)
体感覚タイプ

V (Visual) : 視覚タイプ 目で見えて覚える人

- 言葉よりも、**写真や図、グラフ**など、視覚的な情報で物事を理解します。
- 新しいことを教えるときは、マニュアルを見せたり、絵や図を書いて説明すると効果的です。



A (Auditory) : 聴覚タイプ 耳で聞いて覚える人

- **声や言葉**で情報を吸収し、会話を通じて深く考えます。
- 口頭での指示や、対話しながら説明するスタイルが最も伝わりやすいです。



K (Kinesthetic) : 体感覚タイプ 行動して覚える人

- 実際に手を動かしたり、体験したりすることで、知識が定着します。
- 実践的なトレーニングや、その場でやって見せることで、スムーズに習得できます。



多くの人はいずれの3つのタイプをすべて持っていますが、人によって優位なタイプが異なります。この優位なタイプを知ることで、効果的なコミュニケーションや教育が可能になります。



01 院長の悩みを解決！ VAK診断でチームを強くする

1. 新人スタッフの教育・育成

新人教育がスムーズに進まない、指示が伝わらない…。そんな悩みを解決する、タイプ別の教育・育成法をご紹介します。新しい業務を教える際、マニュアル（V）を見せるだけでなく、口頭で説明（A）し、実際にやって見せる（K）ことで、どのタイプのスタッフにも均等に情報が伝わります。特に、優位タイプに合わせて教育方法を変えることで、教育期間の短縮と定着率の向上が見込めます。

2. 指示や情報伝達の効率化

「言ったはずなのに伝わってない…。」。そんなすれ違いをなくし、スタッフとのコミュニケーションを円滑にする方法を解説します。「あのスタッフには口頭で伝えた方が早い」「このスタッフには図解したメモを渡そう」など、相手のタイプに合わせて指示方法を変えることで、指示の誤解を減らし、業務効率を高めることができます。

02 個人の成長も加速！ VAK診断で働き方を変える

1. スタッフが自分のタイプを知ることによる学習効率向上

スタッフが自身のタイプを知ることによって、「どのように学べば最も効率が良いか」を自分で見つけ出せるようになります。

2. コミュニケーションの改善

自分のタイプだけでなく、相手のタイプを理解することで、スタッフ間や患者さんとのコミュニケーションがスムーズになります。



01 院長の悩みを解決！ VAK診断でチームを強くする

1. 新人スタッフの教育・育成への活用方法

① 診断結果を共有する

まずは、新人スタッフ自身にVAK診断テストを受けてもらい、自分の優位な学習タイプを知ってもらいます。

そして、その結果を教育担当者と共有し、「自分は目で見えて学ぶタイプだ」「聞いて理解するのが得意だ」という認識を、お互いに持つことが重要です。これにより、今後の教育をスムーズに進めることができます。



診断結果と活用方法

② タイプ別の教育プランを作成する

診断結果に基づいて、スタッフごとに合わせた教育プランを作成します。

V（視覚）タイプ向け教育プラン

- マニュアルや手順書を重視：写真や図解が豊富なマニュアルを用意し、まずは自分で読んでもらう時間を設けます。
- 動画マニュアルの活用：実際の業務風景を撮影した動画を見せ、全体の流れを把握してもらいます。
- 視覚的フィードバック：器具の使い方やポジションを教える際、鏡を使って自分の動きを確認させたり、手元の写真を撮って見せたりします。

A（聴覚）タイプ向け教育プラン

- 口頭での丁寧な説明：言葉で一つひとつ丁寧に手順を説明します。なぜその作業が必要なのか、目的も合わせて話すと理解が深まります。
- 質問や復唱を促す：「今の説明、分かった？」と一方的に聞くのではなく、「今説明した手順を、あなたの言葉で話してみてくれる？」と促すことで、理解度を確認できます。
- 録音の許可：許可を得た上で、重要な説明や指示を録音してもらい、後で聞き返せるようにすると安心感を与えられます。

診断結果と活用方法

② タイプ別の教育プランを作成する

診断結果に基づいて、スタッフごとに合わせた教育プランを作成します。

K（体感覚）タイプ向け教育プラン

- 実践的なロールプレイング：実際の患者さんを想定したロールプレイングを繰り返します。
- OJT（On-the-Job Training）の徹底：最初から見てだけでなく、隣に立って実際に手を動かしながら教えます。
- 「やってみて」と任せる：「まずは一度自分でやってみて」と、実践の機会を多く与えます。失敗を恐れずに挑戦できる環境を整えることが大切です。



01 院長の悩みを解決！ VAK診断でチームを強くする

2. 指示や情報伝達の効率化への活用方法

日々の業務指示やフィードバックも、VAKタイプに合わせて工夫してみると良いでしょう。

V（視覚）タイプ

口頭での指示だけでなく、**メモや図解**を添えて伝えます。「今月の目標はこれです」と、紙に書いて渡すのも効果的です。

A（聴覚）タイプ

簡潔な指示だけでなく、「～だから、～してほしい」と理由を言葉で丁寧に伝えます。

K（体感覚）タイプ

「これをやってみて」と具体的に行動を促す指示が伝わりやすいです。フィードバックも「**もっと腕をこう動かして**」と、具体的な動作で伝えます。

02 個人の成長も加速！ VAK診断で働き方を変える

1. 自分のタイプを知ることによる学習効率向上への活用方法

自分がどのタイプかを知ることによって、効果的な学習方法を自分で見つけられるようになります。例えば、

視覚タイプ：マニュアルを読み込んだり動画を積極的に活用し目で見て情報を整理

聴覚タイプ：口頭での説明を聞きながらメモを取る、声に出して復唱することで理解を深める

体感覚タイプ：座学よりも実践を重視し、積極的に手を動かし実践することで習得

これにより、「**どうやって勉強したらいいか分からない**」という悩みを解消し、自主的な学びを促すことができます。

02 個人の成長も加速！ VAK診断で働き方を変える

2. コミュニケーションの改善

自分のタイプだけでなく、相手のタイプを理解することで、より円滑なコミュニケーションが可能になります。

例えば、**Aさんが聴覚タイプ**で、**相手が視覚タイプ**だと知っていれば、口頭での説明だけでなく、メモや図を添えて話す工夫ができます。

うまく伝わらなかった時にも、「この人は目で見て理解するタイプだから、口頭だけでなく図を添えよう」**体感覚タイプの人**には「この人は体験して覚えるタイプだから、まずは一緒にやってみよう」と、責めるのではなく、お互いが歩み寄るための具体的な改善策を講じることができます。

タイプをチェックしてみましょう

※ 診断に必要な設問と回答用紙は、別紙で
ご用意しております。



VAK診断がもたらす、チームと個人の成長

VAK診断は、相手のタイプを知り、コミュニケーションを改善するだけでなく、自分自身の**個性や強みを深く理解する第一歩**でもあります。

自分の学習スタイルを知ること、自律的な成長が促され、仕事のパフォーマンス向上が期待できます。

そして、スタッフ一人ひとりがそれぞれの能力を最大限に発揮できる環境が整えば、歯科医院全体の力も高まるでしょう。

「なぜ伝わらないんだろう？」を 「どうすれば伝わるか」に変える



指示がうまく伝わらないとき、私たちはつい「なぜ分かってくれないんだ」と相手を責めてしまいがちです。しかし、問題は相手の理解力ではなく、「**情報の伝え方と受け取り方の違い**」にあるのかもしれません。

相手を責めずに、お互いが歩み寄るための具体的な改善策を講じる「**建設的なツール**」としてご活用ください。

ご覧いただき
ありがとうございました!